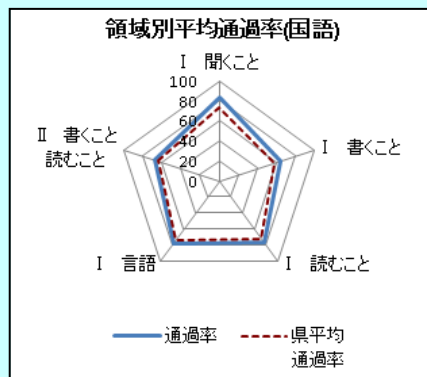
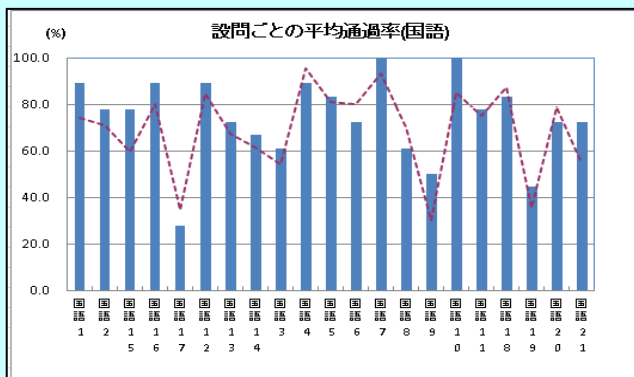


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.1%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは75.5%、タイプⅡは68.1%の通過率となっている。タイプⅠの「聞くこと」の領域の通過率は83.3%であり、おおむね定着していると考えられる。一方、「書くこと」や「書くこと読むこと」の領域の通過率が、それぞれ64.8%と68.1%となっており、書く際の条件を読み取ったり、資料から必要な情報を取り出し、要旨を把握したりすることに課題があると考えられる。

○昨年度の課題への取組・成果・課題

昨年度は、文章から必要な事項を読み取って答えることに課題があり、文章や語句を根拠にして構成や要旨などを把握する取組を行った。その結果として、構成の把握は定着してきている。一方、要旨の把握に関しては文章化することにまだ課題があり、十分定着していない。

重点課題

【課題1】

○書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にするために、条件に沿って書き直すとき、条件をすべて読み取っておらず、条件の読み取り方に課題がある。

(通過率 27.8% 県平均 34.6%)

【課題2】

○目的に応じて資料から適切な情報を取り出すのに、適切な情報を探し、読み取ることができず、要旨を把握することに課題がある。

(通過率 44.4% 県平均 35.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ①主語と述語の働きや関係について復習し、ドリルや小テストで定着を図る。
- ②問題文の条件の読み取り方や分析の仕方の学習とともに、条件に沿って文章を書かせる取組を各領域で行う。
- ③条件に沿って文章を書かせる取組を定期試験だけでなく、まとめやふりかえりにも取り入れるなど、多くの場面で書かせ、取組の充実を図る。

【課題2】

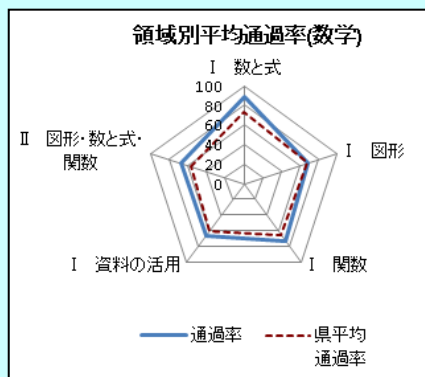
- ①長文教材から表現方法の特徴やキーワードの探し方、要旨の書き方を学習し、文章で書かせる取組を行う。
- ②長文教材の発展学習として複数の文章やグラフを提示し、要旨を把握する取組の工夫と充実を図る。
- ③定期試験で複数の資料を用いた問題を継続して出題するとともに、ドリルや小テストでも出題し、定着を図る。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生休み明けテスト	2年生中間試験		①1年生期末試験 ②2年生期末試験	①1年生休み明けテスト ②2年生休み明けテスト		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値	30.0%	35.5%		①35.5% ②40.0%	①40.0% ②50.0%		①50.0% ②60.0%
実施後数値							

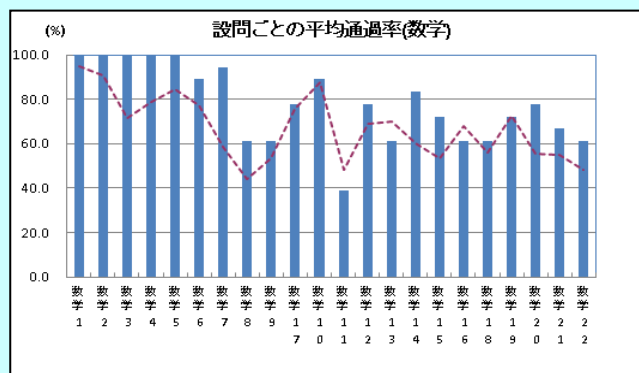
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生休み明けテスト	2年生中間試験		①1年生期末試験 ②2年生期末試験	①1年生休み明けテスト ②2年生休み明けテスト		2年生学年末試験
目標値	45.5%	50.0%		①45.0% ②55.0%	①50.0% ②60.0%		65.5%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.5%, 県 66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
 通過率は、タイプⅠが 80.4%、タイプⅡが 67.8%である。領域別では、数と式において 88.3%と高く、基本的な計算問題では正答率が 100%の問題が 5 問あった。しかし、資料の活用では 66.7%と昨年度に続き、課題があるといえる。また、タイプⅡの記述式の問題では、どれも正答率が 60%以上であり、一定の成果が出た。

○昨年度の課題への取組と成果と課題
 昨年度は、事象の関数関係をよみ取る問題やヒストグラムのみ取りに課題があった。グラフや表のみ取りと説明に力を入れ、タイプⅡでの記述式の記述式で正答率が 10 ポイント上がっており、一定の成果が見られた。

重点課題

【課題 1】底面が合同で高さが等しい円錐と円柱の体積の関係について、円錐の体積が円柱の 3分の1になることの理解は十分であるが、その逆を聞かれたときに答えることができていない。

(通過率 38.9% 県平均 48.1%)

【課題 2】与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を根拠を示して、数学的に説明することができていない。

(通過率 61.1% 県平均 48.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

重点課題を克服するために、定着を図る授業では、予習を活用して、授業前半でしっかり教えて、内容を理解させる。後半では、練習問題を通して定着をさせる。また、活用を考えさせる授業では、高校入試や身近な実生活の事象と数学を結びつけた問題を積極的に取り入れ、ペアや集団を活用し、個々が説明することに重点をおいた授業展開を行う。

【課題 1】角柱と角錐の体積の関係を計量だけでなく、実験等の数学的活動を中心に考察させ、様々な立体で考えさせる。

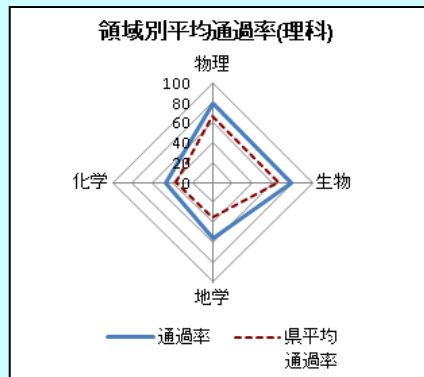
【課題 2】関数や図形の単元に限らず、「説明する」ことを意識した授業展開や練習問題に取り組みせ、発展課題として出題している「思考カプリント」を活用して説明できるようにする。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%			①70.0% ②75.0%
実施後数値							

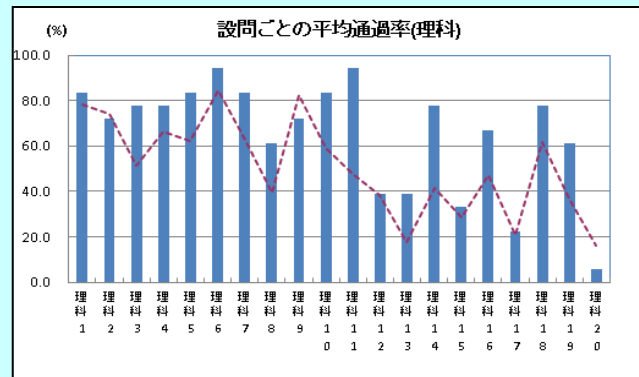
【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		①1年生中間試験 ②2年生中間試験		①1年生期末試験 ②2年生期末試験	①1年生三次市学力到達度検査 ②2年生三次市学力到達度検査		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		①60.0% ②70.0%		①70.0% ②75.0%	①70.0% ②75.0%		①75.0% ②80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 65.3%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

通過率は、タイプⅠが70.8%、タイプⅡが56.9%である。領域別では、物理分野の実験における仮説を検証するための条件制御に関する問題が83.3%と定着が見られる。しかし、化学分野の状態変化についてもとのグラフを参考にして適切なグラフを選び、選んだ理由を2点答える問題が5.6%であり、実験結果を予想する際に独立変数と従属変数の関係を適切におさえて予想することや、実験結果について複数の根拠を示して説明する力に課題があると考えられる。

○昨年度の課題への取組と成果と課題

昨年度は、グラフを読み取れていないことや、起こった自然現象を粒子でイメージできないことに課題があった。そこで、グラフの作成や説明、自然現象のモデル化などの指導を行った。しかし、まだ十分に定着していない。

重点課題

【課題1】 独立変数と従属変数の関係を確実におさえ、条件の変化に伴う結果の変化を予想すること。

(通過率 5.6% 県平均 16.2%)

【課題2】 断片化された情報を統合して全体を推定し、目に見えない部分の状態をイメージすること。

(通過率 33.3% 県平均 28.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ① 実験の結果を変化させる、独立変数になり得るものにはどのようなものがあるか根拠をもとに予想させる。
- ② 条件の変化に伴って実験結果がどのように変化するかを条件ごとに整理させる。
- ③ 複数の条件が同時に変化したときに実験結果がどのように変化するか根拠をつけて説明させる。

【課題2】

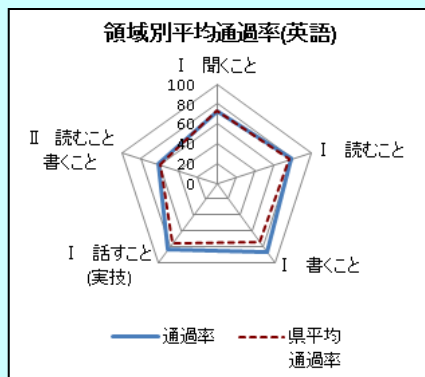
- ① 目に見えない部分を可視化するために、モデルを見せる。
- ② モデルの一部だけを見せてモデル全体をイメージさせる。
- ③ モデルの状態について、わかっている一部の情報を根拠として説明させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		55.0%			①60.0% ②60.0%
実施後数値							

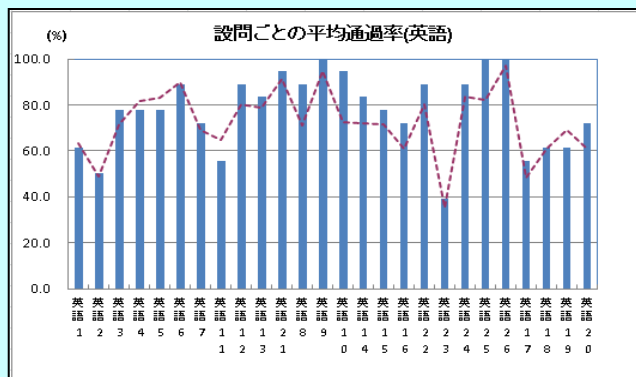
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生夏休み明けテスト	2年生中間試験		2年生期末試験	①1年生三次市学力到達度検査 ②2年生三次市学力到達度検査		①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値	45.0%	50.0%		55.0%	①60.0% ②60.0%		①60.0% ②60.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.4%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
タイプⅠにおいては80.1, タイプⅡにおいては62.5%の通過率となっている。この結果から基礎・基本の定着が図られていると思われるが, タイプⅡの「読むこと書くこと」に見られる読むことと書くことを合わせた統合的な領域に関しては課題があることがわかる。また, 「リスニング」において50.0%, 「適切な文を用いた会話文の組み立て」において55.6%と短い会話文を聞いたり書いたり理解に課題があった。
- 昨年度の課題への取り組みの成果
昨年度は授業での帯活動で, 定型文を繰り返し音読・暗唱したり小テストをすることで, 構文の定着が図られた。

重点課題

【課題1】

what + 名詞の文を構成する知識を必要とする問題に課題がある。what を疑問代名詞で学習する際の疑問形容詞としての用法の学習に課題がある。
(通過率 55.6% 県平均 48.4%)

【課題2】

疑問詞のある質問に対して, 適切に応答する問題に課題がある。特に, 現在進行形を用いた質問に, 現在形で答えたり, be 動詞がなく ~ing だけを用いて答えていて, 英語の時制の感覚を身に付ける必要がある。
(通過率 38.9% 県平均 35.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- ① this, that, what の名詞の用法, 形容詞の用法を再認識させ, 名詞と形容詞の使い方について比較し, 違いについて理解させる。
- ② 名詞, 形容詞に特化した問題を練習させる。

【課題2】

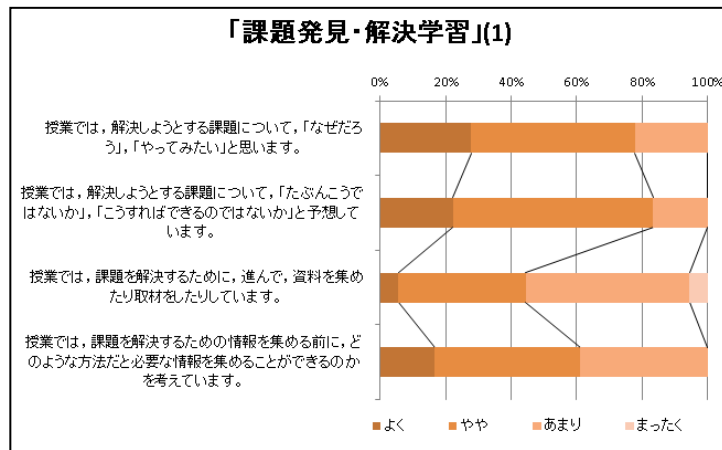
- ① 映像や絵を用いて, 現在行われている場面を現在進行形で表現させる。
- ② 現在, 過去, 進行形と英語の時制を意識した場面を設定し, どの時制を用いるべきかを考えさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%			①70.0% ②70.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生中間試験		2年生期末試験			①1年生学年末試験 ②2年生学年末試験
目標値		50.0%		60.0%			①70.0% ②70.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

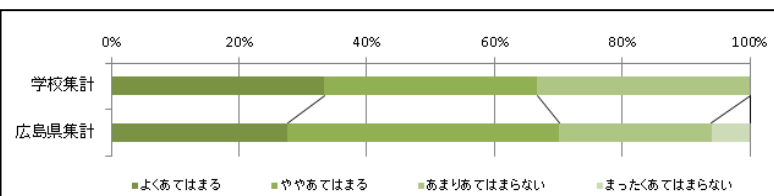
(1) 生活・学習



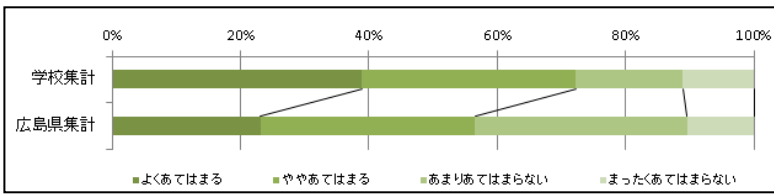
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」についての肯定的な数値が44.4%と低い。 (県平均 39.9%)	①予習の活用や前時のノートを活用した授業展開をする。 ②個人思考の時間の確保、集団思考等、主体的に活動する場面を設定する。 ③総合的な学習の時間の調べ学習において、パソコンや図書室を積極的に活用する。	2	同一質問紙肯定的評価が50%以上	同一質問紙によるアンケート及び授業アンケート	①12月 ②3月		

(2) 教科

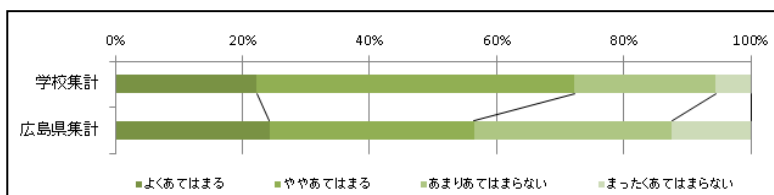
国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしています。



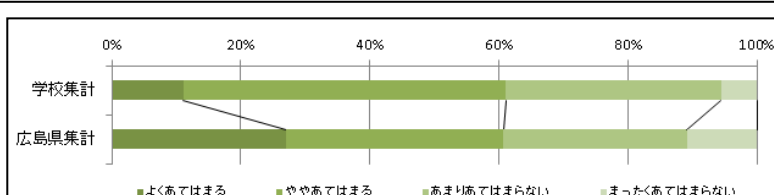
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしています。 (肯定的評価 66.7%) (県平均 70.2%)	①条件を提示し、目的に応じた複数の資料を読む学習を取り入れる。 ②発展学習で、課題に応じて複数の資料を用意し、自分の考えを書き、発表する学習を設定する。	2	同一質問紙肯定的評価70%以上	授業アンケート ※平成29年度生徒質問紙を活用	平成30年2月		
数学	数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。 (肯定的評価 72.2%) (県平均 56.6%)	①内容理解で、ペアで解き方の説明をお互いし合う活動を入れる。 ②図や表を用いた説明の場면을積極的に取り入れる。 ③プリント、定期試験での記述式問題を実施する。	2	同一質問紙肯定的評価80%以上	授業アンケート ※平成29年度生徒質問紙を活用	平成30年3月		
理科	理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。 (肯定的評価 72.2%) (県平均 56.5%)	①授業の導入時に日常生活に関連する事物・現象についての課題を設定する。 ②日常生活に関連する事物・現象を説明させる活動を入れる。 ③小テストや定期試験で日常生活に関連する問題を実施する。	2	同一質問紙肯定的評価80%以上	授業アンケート ※平成29年度生徒質問紙を活用	平成30年3月		
英語	英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。 (肯定的評価 61.1%) (県平均 60.7%)	①帯の活動で積極的に英語を使う気持ちや雰囲気を作る。 ②毎日ノートの中で、日記やスキット作り等英作文を書かせる。 ③プロジェクト単元では自分の意見をまとめ発表できるように学習を設定する。	2	同一質問紙肯定評価70%以上	授業アンケート ※平成29年度生徒質問紙を活用	平成30年3月		

